今、改めてハンドボール競技を振り返る



(財) 日本ハンドボール協会常務理事・競技本部長　江成 元伸

北京オリンピック予選が終わり、この機関誌が発行されている頃には、本番の北京オリンピックも無事に終了していることと思われます。今年の１月、本当に嵐のように大騒ぎをした、あの熱気を再び、と思う毎日です。

さて、私たちは毎日いろいろな環境で練習をし、そして各種大会に参加していますが、私たちが行っているハンドボールは、世界で行われているハンドボールと本当に同じなのでしょうか。野球やサッカー、ゴルフなどの競技は、国際的メジャーな大会がメディアを通して、毎日接することができます。また、多くの日本人プレーヤーが国際舞台に立ち、大活躍をしていることから、各競技のいろいろな情報に触れることができます。これらの競技では、日本の国内で行われている競技と世界の競技にうまさ、強さの差、環境的な差こそあれ、同じプレーが行われています。

日本のハンドボールも、世界で行われているハンドボールと同じプレーをし、同じ環境で行っていることは事実です。しかし、細かいことを指摘すれば、いくつかの大きな差が見られます。一つは、ハンドボール競技は屋内競技として位置づけられているにもかかわらず、日本では体育館で練習、試合をする機会が非常に少ないことがあげられます。一般の方には、ハンドボールは屋外競技だと思っている方も多くいるのではないでしょうか。日本のハンドボール競技者も、練習は屋外で、試合は屋内でいうのが当たり前、と思っていないでしょうか。屋内と屋外、ここには技術的に大きな差があります。屋外コートでは、ボールハンドリング、ランニング、ストップ技術など、プレーの習得に不利な条件となっています。屋外では、松やにの使用は許されています。しかし、体育館ではトップの試合を除きほとんどが松やにの使用を禁止され、両面テープで対応せざるを得ません。

また、正規コートの広さを確保できる体育館の数が、あまりにも少ないということがあげられます。高等学校の体育館の広さは行政の基準で決められており、ハンドボールは基準の中に入っておりません。ましてや、中学校、小学校ではさらに狭くなり、体育館で練習を行えるチームは多くないでしょう。国民体育大会を開催するときは、正規コートの広さをもつ体育館が６コート、もしくは５コート必要で、それらの体育館で大会が開催されます。しかし、大会が終了すると、ハンドボールコートとして利用する機会はめっきり少なくなると聞いています。

最近開発されているボールのコンセプトは、松やにを使用しなくてもグリップ性能を高めることを目的とし、そのようなボールが発売されています。しかし、グリップ性能を高めるということは、ボールを握りやすくするために、ボール表面を柔らかくせざるを得ません。ところが、世界で使用されているボールは固くて使いにくいものなのです。

世界で日本の競技者が羽ばたくためには、常に正規の広さを持った体育館で、固いボールで、世界と同じハンドボール競技ができなければばならないのです。

日本の大多数のハンドボールの競技者にとって、ハンドボールとは、「する競技」であって、「見る競技」ではないようです。競技者だから競技をすることが第一なのは当然ですが、世界のハンドボールに触れましょう。見る機会を増やしてください。いやいやそうは言っても、国内のハンドボールですら、テレビやメディアに登場しないじゃないか、日本協会もっとがんばれよ、と言われる人も多いと思います。「がんばれハンドボール10万人会」もここにきて、競技者と愛好者の実数として10万人を超しております。しかし、この方たち以外にも、大学同好会リーグなどで競技をする人、今まで小・中・高・大学でクラブ活動として競技をする人たちがいるはずです。この方々を加えれば、ハンドボール人口は30万人、50万人となるはずです。その方々を入れて、「ハンドボールとは正規の広さを持つ体育館がなければ競技はできない」、「松やにを使わなければ上手になれない」、「テレビで放送してほしい」、という声が日本のハンドボール文化へと発展するよう、みんなで大きな声を出し続けませんか。

2008 ジャパンカップ熊本大会
日本 vs ブラジル　ハンドボール親善試合

2008 JAPAN CUP 熊本大会——日本 VS ブラジルハンドボール親善大会を開催して

熊本県ハンドボール協会事務局長　奥園 栄純

昨年に引き続き JAPAN CUP を熊本県で開催する機会を与えてくださいました財団法人日本ハンドボール協会に先ず以て感謝申し上げたいと思います。

この JAPAN CUP を、昨年は 1997 年に開催した男子世界ハンドボール選手権大会開催 10 周年の記念大会として開催することができ、今回は北京オリンピックを控えたブラジルチームを日本代表チームが迎え撃つというハイレベルの大会として開催することができました。ここであえてこのことを書いてしまうと語弊があるかもしれませんが、今回のこの大会が、日本代表チームのオリンピック壮行試合であったならと思ったのは私ばかりでなく、ハンドボールファンの共通の思いであったと思います。是非とも、４年後に実現できることを心から願うものであります。

大会を開催するにあたり、本県協会としていくつかの試みやこれまでにない経験等がありましたので、そのことについて述べさせていただきます。

１．集客ターゲットのグローバル化のためのマスメディアの有効活用

今回、諸々の理由から熊本での開催の最終決定が非常にずれ込み、大会開催の有無を協会内で話し合う場を幾度か持つこととなりました。折角、本県での開催の機会を与えていただいているので、できるだけ開催の方向で準備をしようということで、最終判断したのが、６月 25 日で、大会まですでに１ヶ月を切った時期でした。そこで、本来ならチケット、ポスター、チラシ等を印刷して登録チーム等関係者にダイレクトメールを送り、告知し、集客にあたるというのが一般的なやり方ですが、そのような暇がない事や、昨年からの「中東の笛」に端を発したハンドボールへの注目度とその当事者である日本代表チームが来熊してくれるというメリットを最大限に活かそうと考えました。

そのために関係者のみをターゲットとした集客でなく、県民全体をターゲットとしたマスメディアを計画的に活用した下記のような PR を行い、「チケットぴあ」及び「ローソンチケット」による有料販売のみに踏み切りました。

①テレビ、ラジオにおける宮﨑大輔選手による事前告知

何と言っても、今やハンドボール界の顔である宮﨑選手に熊本のテレビやラジオの CM に数秒でも出てもらい、会場への応援の呼びかけをしてもらおうと考えました。当初、テレビ局も多額のギャラの発生やこれからのスケジュールの問題を危惧し、難しいのではないかと消極的でしたが、日本協会を通しお願いし、練習前の貴重な時間をいただいて無事制作することができました。また、テレビ局の御好意によりその映像を本県協会のホームページでも配信することができ、大きな反響となりました。

②計画的なマスメディアの有効活用

大会開催まで期間がないため、タイムリーなマスメディアへの露出を考えました。そこで、先程制作経緯について述べたテレビ、ラジオ CM による大会開催、チケット販売告知を７月 12 日に開始し、併せて７月 13 日付けの熊本日日新聞（熊日）による開催決定と入場料金、チケットの購入方法、日本代表選手のメンバーに本県出身の内田雄士選手が入っているという記事、７月 21 日付け熊日による日本代表チームが熊本入りし、練習の記事、７月 22 日には RKK 熊本放送の夕方の生放送番組に内田選手と宮﨑選手が出演、７月 23 日付けの熊日による大会第１日目の記事、７月 24 日付け熊日による大会第２日目の記事（全て写真入り）とわずか 10 日余りの間でしたが、このように計画的かつ有効にマスメディアの御協力を得て、PR をすることができました。改めてメディアの威力を感じるとともに、これまで、本県ハンドボール界の諸先輩方が、各種全国大会優勝 113 回を始め輝かしい伝統と報道機関との良好な関係を築いていただいていたお陰であると痛感するものでした。

２．ハンドボール競技の商品価値を高めるための料金設定

これまで述べてきたように、今大会はハンドボール界の追い風に乗った大会開催でしたので、ハンドボールという商品価値を高めたままの、強気の料金設定をしようと考えました。本県では世界選手権大会を始め、日本リーグ、全日本実業団大会とさまざまな有料大会を主管してきましたが、今回始めて、フロア席を大人、子供問わず 3000 円という料金で販売しました。両日とも前売りで 100 枚程度の売れ行きでしたが、当日、２階席のチケットに料金をプラスしてフロア席に交換して欲しいという要望があったり、当日券でもフロア席のチケットが多数売れるなど、このレベルの大会で、今のハ



■選手名簿

	氏　名	所　　属
監　督	酒巻　清治	トヨタ車体
コーチ	中山　剛	湧永製薬
トレーナー	赤尾　和彦	トレーナーズフォーアスリート
分　析	舎利弗　学	福島高校

No.	位置	氏　名	所　　属	出身校
1	GK	松野　雅崇	トヨタ紡織九州	福岡大
2	CP	豊田　賢治	大崎電気	国士舘大
3	CP	高智　海吏	トヨタ車体	大体大
6	CP	福田　大樹	湧永製薬	東海大学
7	CP	宮﨑　大輔	大崎電気	日体大
8	CP	藤田　聖史	トヨタ車体	中部大
9	CP	永島　英明	大崎電気	大体大
12	GK	坪根　敏宏	湧永製薬	福岡大
14	CP	武藤　剛	湧永製薬	日体大
15	CP	河瀬　豊	Honda	大体大
16	GK	松村　昌幸	湧永製薬	福岡大
17	CP	内田　雄士	大崎電気	日本大
18	CP	﨑前　博章	トヨタ車体	浦和実高
19	CP	猪妻　正活	大崎電気	早稲田大
20	CP	門山　哲也	トヨタ車体	日本大
23	CP	東長濱　秀作	湧永製薬	日体大

※日本代表は、熊本大会と広島大会では構成メンバーが異なります。

ンドボール人気であれば、この料金設定は決して高い料金ではなかったと意を強くしました。その事が、7月24日付けの熊日新聞でも宮崎市から観戦に来られたファンのコメントとして掲載されていました。

3．スター選手への対応

これまでいろいろな大会を開催する中で、運営側として経験のない対応がありました。それは、宮﨑大輔選手のファンサービスへの対応でした。宮﨑選手はとてもファンを大切にする選手で多くのファンの要求にとても丁寧に応えており、幅広い年齢層のファンが宮﨑選手の周りに集まる光景はハンドボール人気の象徴のようにさえ感じました。また、そのファンの要求に応えるその真摯な姿は、宮﨑選手がハンドボール界を大切に思い、ファン拡大に向け、これまでのハンドボールプレイヤーが経験したことがない様々な事へ挑戦し、ハンドボール界の未来を切り開いていくパイオニアとしての使命感さえ感じることができました。しかし、運営側としてはそのファンサービスに対する規制や警備、他の代表選手とのバランス等、どのように対応していいのかわからない場面やこちらで勝手に規制を加える場面など、何を主眼において運営側はどのように行動しなければならないのか戸惑う場面も多くありました。今後、もっと多くのスター選手が生まれ、このような場面が発生した場合、運営側がどのように対応するのがベストなのか選手当事者やチームスタッフと事前に入念な打ち合わせをしなければならないと感じました。

4．代表選手の人間性

当初、21日に日本代表とブラジルチームとが一堂に会したウェルカムパーティを予定していましたが、ブラジルチームの到着が深夜となったため、日本代表チームと本県協会の役員との会食会を開かせいただきました。代表選手の皆さんは本当に気さくで、礼儀正しい選手ばかりで、本県協会役員もハンドボール競技の関係者として代表選手を誇り思うという感想を持たれたところでした。

また、後日、代表チームのキャプテン永島選手と宮﨑選手のファンサービスについて話す機会があり、チームとしてはどう思っているのかと尋ねたところ、宮﨑選手がハンドボール界を代表してあれだけのファンに誠心誠意、対応している姿に敬意を表しており、自分達が大会会場で待たされることなどは、運営側としても全然気にしなくても良いとの言葉を聞き、代表選手の人間性に改めて深い憧憬の念を持つものでした。これも一連の「中東の笛」に端を発した騒動に対する日本協会の役員方々のこの事を単なるワイドショーネタにしてはいけない、ハンドボール界にフェアプレー精神を取り戻す戦いであるというスポーツマンシップに基づいた毅然とした態度が、代表選手にも深く浸透している証であると感じました。

以上、2008 JAPAN CUP 熊本大会の開催における舞台裏について、思うままに述べさせていただきましたが、地方で代表チームの試合や日本リーグの試合を開催できるということは、とても幸せなことであり、このことが地方からハンドボールを盛り上げていく、千載一遇のチャンスであると思います。先般の日本リーグの開催地責任者会議でも各都道府県にハンドボールに熱い思いを持った同志がたくさんおられることを心強く思いました。お互いに知恵を出し合いながらハンドボールの商品価値を高め、代表選手や日本リーグの選手が多くの熱いファンの中で最高のパフォーマンスを発揮できる大会運営を行うことが我々の使命であると思います。そのことが4年後のロンドンへの道に繋がると信じて……。

■戦 評

◆第1日［7月22日（火）］

日　本　34（16 − 13、18 − 18）31　ブラジル

【日本、初戦を勝利で飾る！】

日本はゲームの序盤からスピードを生かした速攻を立て続けに決め主導権を握る。対して、ブラジルはクロス攻撃からロングシュートを狙いながらディフェンスがつめると空いた下のスペースにポストが走り込む組み立てで対抗するが、13分までに5対9と日本にリードされる。タイムアウト後、ブラジルはNo.17 フェリペ・ヒベィロがサイドシュートを立て続けに決め追い上げにかかるが、日本もNo.3 高智のミドルシュートやNo.2 豊田の7ｍスローなどで加点し、前半は16対13と日本の3点リードで折り返す。

後半に入ると、互いに退場者を出す激しい攻防となった。ブラジルは、No.10 エリオ・ジュスチーノのサイドシュート、No.5 カルロス・エルテルのポストシュートなどで、10分過ぎには1点差にまで追い上げる。しかし、日本はエースNo.7 宮﨑のミドルシュート、No.17 内田、No.23 東長濱の活躍で粘るブラジルを振り切り34対31で日本が初戦を勝利で飾った。互いにメンバーを頻繁に入れ替えるスピーディーな展開の中、随所にスカイプレーなどのテクニカルなプレーも見られ見応えのあるゲームであった。

【日本の得点】豊田6、内田5、門山4、高智・宮﨑・猪妻・東長濱3、藤田2、福田・永島・武藤・河瀬・崎前1

◆第2日［7月23日（水）］

日　本　32（16 − 15、16 − 19）34　ブラジル

【日本、逆転負け！】

初戦を勝利し連勝を狙う日本に対し巻き返しを図りたいブラジルとの第2戦は、立ち上がりから激しい点の取り合いとなった。序盤はミスが目立つブラジルに対し、日本はNo.23 東長濱のステップシュートやNo.2 豊田のサイドシュートなどで得点をあげペースをつかむ。しかし、ブラジルは、No.9 レオナルド・ボルトリニのミドルシュートやNo.3 フェルナンド・パシェコのサイドシュートなどで反撃し一時は4点差にまで開いた点差を20分過ぎには1点差にまで追い上げる。ここから日本は、No.7 宮﨑の好アシストからNo.20 門山のミドルシュートなどで加点。ブラジルの退場もあり、一気に突き放したいところであったが、逆に連続得点を許し、結局前半は16対15の日本1点リードで折り返す。

後半に入り開始2分でブラジルはNo.8 ブルーノ・ゾウザのミドルシュートで逆転、その後は交互に点を取り合う一進一退の攻防が続く。点差が開いたのは、24分過ぎ、日本がラフプレーで退場者を出すと、ブラジルは、7ｍスロー、サイドシュートで着実に加点し3点差に広げる。それでも日本は、No.18 崎前のサイドシュート、速攻などで残り90秒で同点に追いつくが、再度日本は退場者を出しNo.7 レナト・トゥパンにサイドシュートを決められ最後は34対32の2点差でブラジルが勝利した。相手チームの退場の間の攻防、特に日本の場合は相手5人に対し失点が多かったのがゲームの明暗を分けた。

【日本の得点】門山7、豊田・崎前・東長濱4、猪妻3、高智・福田・宮﨑・藤田2、武藤・内田1

地元新聞の記事から

ハンド男子ジャパンカップ熊本大会

日本 ブラジル下す

ハンドボール男子の日本代表と北京五輪に出場するブラジル代表が対戦する2008ジャパンカップ熊本大会は22日、山鹿市総合体育館で始まり、日本はブラジルを34―31で下した。

日本は前半、内田雄士（千原台高出）、豊田賢治らが速攻を立て続けに決めるなど16―13で折り返し、後半3分すぎには一時5点差まで広げた。その後4連続失点で20―19と追い上げられたが、門山哲也、東長浜秀作らのゴールで再び突き放した。

最終日の23日も午後7時から同会場で日本―ブラジルがある。

日　本34［16／18］［13／18］31ブラジル

内田活躍、5得点

○…日本代表は、千原台高出身の内田雄士がチーム2番目となる5得点で勝利に貢献。「出だしは良かったけど、攻めのミスで点差を詰められたので70点」と自己採点は辛かったが、局面の守りで体格差を感じさせなかった。

攻撃で凡ミスが目立ったのは日本チーム全体の反省材料。永島英明主将は「せっかくいい守備をしながら安易なミスをしては駄目。もうちょっと（点差を）離せた」とぽつり。それでも「外国人のパワー、スピード、タイミングを国内で味わえる機会は貴重。次も勝って経験を重ねたい」と意欲的だった。

【日本－ブラジル】前半17分、日本の内田がシュートを決め10－7とする＝山鹿市総合体育館（小山真史）

熊本日日新聞（7月23日付）

試合後の〝仕事〟

七月下旬、山鹿市であったハンドボール男子のブラジルとの親善試合。終了後の会場で、日本代表の宮﨑大輔選手がサイン会を行った。

ファンの要望は多い。サインはTシャツやバッグにも。記念写真はコンパクトカメラだけでなく、携帯電話でも念入りに。そして握手。

ハンド界きっての人気選手としては〝それも仕事〟なのかもしれないが、ファンの長い行列がなくなったのは試合終了の約四十分後。最後まで丁寧な応対を続けていた姿が印象的だった。（小山真史）

活写道 かっしゃみち　随時掲載

2008.8.4

熊本日日新聞（8月4日付夕刊）

ドクター・水素水 —— 特殊セラミックTスティック

簡易型水素発生「生」水器（水素発生ミネラルスティック）

豊富な水素が 水を変える！

フレンディアはJADMA（日本通信販売協会）の正会員です。

JADMA
社団法人日本通信販売協会会員

健康は毎日の飲料水から…



※本製品は改良のため予告なく仕様・デザインを変更する場合があります。



500mlのお水にドクター・水素水スティック１本を投入。
約120分後、水温21度における容存水素量0.48ppm。（当社測定値）

日本医学交流協会医療団
（ＮＰＯ認証 東京都）



当商品は認定を受けています。
http://www.drp.ne.jp/で認定確認できます。

特許公開番号：2004-41949
韓国特許登録：529006号
米国特許番号：7189330

原材料／金属マグネシウム、天然石
サイズ／18×122mm



価格／1箱3本入り 13,440円（税込み）



水の入ったペットボトルなどの容器に
スティックを入れるだけ。
2リットルの水道水にこれ１本！
しかも**6ヶ月と長持ち**です。
１日2リットル作ったとして、
たったの24円と経済的。

株式会社フレンディア

〒150-0041 東京都渋谷区神南1-9-7 丸栄ビル6F
TEL：03-5728-3360　FAX：03-5728-3363
フリーダイヤル 0120-372-132（みんなに いーみず）

株式会社フレンディアのウェブサイトを併せてご覧ください。

http://www.friendear.co.jp

第13回
ヒロシマ国際
ハンドボール大会
兼 2008 ジャパンカップ
広島大会





第13回ヒロシマ国際ハンドボール大会兼2008ジャパンカップ広島大会を終えて

広島県ハンドボール協会理事長　山本　一

1994年に行なわれた広島アジア競技大会のメモリアル大会として、翌年から開催されている、夏の風物詩として定着しているヒロシマ国際大会も今年で13回目を迎えました。今年も2008ジャパンカップ広島大会も兼ねた大会でした。

今年は北京オリンピックの年で中東の笛問題に端を発したアジア再予選などもあり、有史以来といってもいいくらいの盛り上がりを見せた日本のハンドボール界でした。

残念ながら日本は男女とも悲願のオンピック出場にならなかったものの、このハンドボールの火を消すことなく、本当のメジャースポーツへ導くことが我々ハンドボール関係者の責務だと思っていました。ヒロシマ国際大会も当然その一翼を担うべき大会であると自負しています。その大会に、南北アメリカ大陸代表として北京オンピックに出場する男子ブラジル代表が、参加決定まで紆余曲折がありましたが、熊本のジャパンカップ（22、23日）に続き、広島の大会に出場しました。

今大会はブラジル代表に加え、韓国軍体育部隊、日本代表と地元広島の湧永製薬が出場しました。試合結果は別頁記載の通りですが、ブラジル代表がオリンピック出場を前に、気合の入ったプレーで全勝し、気持ち良く北京へ乗り込んだものと思います。会場は冷房も効果がないくらい暑い中、3日間とも多くの観客で盛況でした。

酒巻監督率いる日本代表は、国体ブロック予選、全国実業団選手権大会等を控えている個々のチーム事情のためか、ベストメンバーではなく、関係者としては残念な思いもありました。しかし、この夏一番の暑さの広島で、宮崎大輔選手を筆頭によく頑張ってくれたと思います。

韓国軍体育部隊は、急な招聘にも関わらず、また竹島問題などで日韓交流会が全国で中止になる中でかけつけてくれました。試合は1勝もすることは出来ませんでしたが、一生懸命なプレーは見ている人にとって感動ものでした。勝敗に賭ける執念は日本のチームにも学ぶ面が多かったのではないかと思います。

地元湧永製薬ハンドボール部は、単独チームとして初めて大会に参加しました。日本代表にはメンバーとして5名送り込んでいましたが、日本代表ではなく湧永製薬として出場したため、酒巻日本監督には迷惑をかけましたが、代わりに選ばれた他のチームの選手に出場の機会を与えられたものと受け止めていただくことで、お許しいただきたいと思います。

ブラジル代表は、日本の真反対に位置し、現在の季節は冬であることから早目に夏の北京に慣れるため、事前合宿を兼ね韓国も視野に入れていたそうですが、今年日伯100周年を迎える日本を選んでくれました。JOCとのパートナー都市契約を結んでいる広島市も北京オリンピック事前合宿招致運動を行なっていたこともあり、ブラジル代表が来てくれたことには、日本ハンドボール協会に対して大いに感謝してくれています。7月24日から北京へ発つ8月3日まで、ブラジル担当の職員をずっとつけてくれるなど協力いただきまた。

ブラジル代表は、広島市の中学生チームとの交流会ではハンドボールの技術指導なども行なってくれ、非常に協力的で紳士的なチームの印象でした。また、大会最終日のサヨナラパーティでは、ブラジルの曲を場内に流すと全選手が踊り出すなど、陽気なチームでもありました。

今大会はブラジル代表が北京事前合宿を行なったこともあり、地元マスコミもブラジルの行動について多く取り上げてくれ、子供達との交流会の模様をNHK、RCC、HTV等でオンエアするなど、いつにも増して積極的な報道をしてくれました。

最後にヒロシマ国際ハンドボール大会を開催するにあたり、特別協賛いただいた株式会社モルテンをはじめとした協賛各社による支援、主催者として今年も大会告知、試合の報道などでハンドボールをPRしてくれた中国新聞社をはじめとする報道各社、広島県、広島市、㈶広島県体育協会、㈶広島市スポーツ協会に対し厚くお礼申し上げます。

■選手名簿

	氏　名	所　属
監　督	酒巻　清治	トヨタ車体
コーチ	中山　剛	湧永製薬
トレーナー	赤尾　和彦	トレーナーズフォーアスリート
分　析	舎利弗　学	福島高校

No.	位置	氏　名	所　属	出身校
1	GK	松野　雅崇	トヨタ紡織九州	福岡大
3	CP	高智　海吏	トヨタ車体	大体大
4	CP	前田　誠一	大崎電気	日体大
6	CP	銘苅　淳	トヨタ車体	筑波大
7	CP	宮﨑　大輔	大崎電気	日体大
9	CP	永島　英明	大崎電気	大体大
11	CP	酒井　俊樹	大崎電気	国士舘大
12	GK	浦和　克行	大崎電気	日体大
13	CP	長谷川　聖	トヨタ車体	中部大
14	CP	岩永　生	大崎電気	筑波大
15	CP	河瀬　豊	Honda	大体大
16	GK	松村　昌幸	湧永製薬	福岡大
17	CP	鶴谷　大輔	トヨタ車体	大体大
18	CP	﨑前　博章	トヨタ車体	浦和実高
19	CP	猪妻　正活	大崎電気	早稲田大
20	CP	門山　哲也	トヨタ車体	日本大

※日本代表は、熊本大会と広島大会では構成メンバーが異なります。

■戦 評

◆第１日［7月 25 日（金）］

日　　本　36（17 − 19、19 − 13）32　韓国軍体育部隊

試合開始直後は日本の０−６ディフェンスを攻めあぐねる韓国軍であったが、日本のミスに乗じた速攻で加点していくうちにパスも繋がり始め、徐々にペースをつかんでいった。日本も宮﨑を中心とした展開の速い攻めで譲らず序盤から互角の試合展開を見せた。その後も両チームともスピード感あふれる攻めを展開し、一進一退の攻防が続いた。

17 対 19、日本の２点ビハインドで始まった後半戦であったが、前半途中からベンチにさがっていた宮﨑、サイド猪妻が次々とシュートを決め、すぐに同点に追いつくと、後半４分前田のミドルシュートで逆転する。後半５分、レフェリーのジャッジに不満を募らせた韓国軍監督の抗議に対し、レフェリーは指名退場を科す。この退場を機に日本は流れを引き寄せ、GK 松野の好守からの速攻で、韓国を引き離しにかかる。11 分門山の負傷退場のアクシデントがあったものの速攻の足はおとろえず、ねばる韓国を徐々に引き離していった。日本は最後まで攻撃の手をゆるめず、36 対 32 の４点差で勝利を収めた。

【日本得点者】宮﨑７、猪妻５、高智・酒井・岩永・鶴谷４、永島・門山３、前田・長谷川１

◆第２日［7月 26 日（土）］

湧永製薬　35（20 − 15、15 − 17）32　日　　本

日本代表は、立ち上がりから小さなミスが多く波に乗り切れない。それに対し、湧永は、17 番古家の思い切りの良いシュートなどで得点を重ねた。日本代表も食い下がるが、湧永の勢いは止まらず、日本代表は、たまらず 10 分でタイムアウトを取った。しかし、試合の流れを変えるには至らず、一時は８点差が付いた。日本代表は、７番宮﨑や 17 番猪妻のシュートで追い上げるが、湧永１番志水の好守もありなかなか差を詰められず、前半は 20 対 15 の湧永リードで終了した。

日本代表 19 番猪妻の７m スローでスタートした後半は、代表の動きが良くなり、徐々に点差をつめていき、ついに 16 分過ぎ宮﨑のシュートで 25 対 25 の同点に追いついた。ここからは、両者の一歩も譲らない壮絶な点の取り合いとなったが、シュートを確実に決めた湧永が 35 対 32 で勝利した。同点に追いつかれた後、見せた湧永ＧＫ陣の３連続セーブが光った。

【日本得点者】宮﨑 10、猪妻６、高智４、前田・鶴谷・門山３、永島２、長谷川１

◆第３日［7月 27 日（日）］

ブラジル　28（14 − 13、14 − 13）26　日　　本

ブラジルのスローオフで始まり、いきなり３番がミドルシュートを決めた。それに対して日本はエースの７番がすぐにミドルシュートで応酬して激しい試合の幕開けとなった。その後もブラジルは体格を生かし、速いパスワークからセンター、サイド、ポストと使い分けた攻撃から確実に加点した。一方、日本も７番を中心にした幅広い攻撃を繰り返し、ディフェンスの激しいプレスにも屈せず果敢にゴールをめざし、２本の７ｍスローを確実に決めて激しい攻防を繰り返した。そのまま 13 分過ぎまで一進一退の攻防を繰り返したが、その後５分間は両チームとも攻めあぐみ、18 分からまた動きが出てきて、ブラジルの１点リードで前半を終了した。ただ、単なる点の取り合いではなく、両チームのキーパーが好セーブを連発して試合を引き締めた。

後半に入り、ブラジルが速攻で加点して点差を広げ、後半開始 10 分には４点差まで広げたが、日本も諦めることなく速いパスとポスト、サイドを使った攻撃を繰り返し、相手のミス、そして退場を誘い、またディフェンスの強いプレスから速攻につなげて、後半 23 分には同点に追いついた。そして 24 分、３番がこの試合４点目となるミドルシュートを決めて、ついに日本が１点リードした。最後まで目の離せない好ゲームを展開して多くの観衆を沸かせたが、オリンピックに出場するブラジルが意地を見せて２点差で逃げ切った。

【日本得点者】猪妻５、高智４、銘苅・宮﨑・永島・﨑前３、門山２、酒井・岩永・鶴谷１

男子第19回・女子第7回
世界学生ハンドボール選手権大会



■最終順位

男子：優勝：ロシア、2位：ベラルーシ、3位：オーストリア、4位：トルコ、5位：ポーランド、6位：グルジア、7位：セルビア、8位：イタリア、9位：ハンガリー、**10位：日本**、11位：ラトビア、12位：キプロス、13位：チェコ、14位：メキシコ、15位：アゼルバイジャン、16位：オーストラリア

女子：優勝：トルコ、2位：ハンガリー、3位：ルーマニア、4位：セルビア、5位：アゼルバイジャン、6位：ロシア、7位：チェコ、8位：ブラジル、9位：リトアニア、10位：ポーランド、**11位：日本**、12位：中国、13位：イタリア、14位：ハンガリー

総　評

チームリーダー　福地 賢介

イタリアのベネチア本島から東へ約50km程のアドリア海に面した国際的な海水浴場で知られるJESOROで男子16ケ国、ODERZOとMEOLOを主会場として女子14ケ国が参加し開催（7月5日～13日）された。

来年、セルビアで開催（公開競技）されるユニバシアード大会の出場権（上位4チーム）もかかり、予選リーグから熱戦が展開された。優勝候補とされていたロシアが予選リーグ初日にトルコに敗れる波乱の幕開けとなったが、その後、調子を上げ、パワーとスピードある攻めで勝ちあがり、決勝戦でベラルーシを大差で破り大会3連覇を果した。女子は小柄ながらスピードと切れの良いプレーで、大型チームのハンガリー相手に1点を争う接戦を制したトルコが初優勝を飾った。

日本は男女共に、ベスト4を目指したが、男子は緒戦に勝利したが、セルビア戦で引分けた為、グルジア戦に勝つか引分けで、決勝トーナメント進出であったものの、ミスが目立った事やシュートの精度を欠くなどして1点に泣き順位決定戦行きとなった。また、女子は怪我や学業の関係で当初のチーム構想通りに編成できなかった事、その他もあり、予選リーグで1・2戦の勝ゲームを引分けにした事で、決勝トーナメント進出を逃がしている。

大会を振り返って見ると、男子はシュートの精度アップ、ミスの減少、また、女子は大柄な選手を相手にした時の優勝したトルコの様なゲームスタミナが課題と思われた。

帯同審判員は、今回、福島・家永両審判員であったが、1998年の旧ユーゴスラビアの後藤・清水両審判員以来の男子3位決定戦を担当、トルコを初め各国代表から好評を得ていた。

開催地の各ホテルは欧州各国からの海水浴の長期滞在客で満杯であり、各国選手団は各ホテルに分散宿泊であった。このため、宿舎の差が若干見受けられたが、食事面は、朝食をホテル、昼食・夕食は体育館食堂にてのバイキング方式で、ピーク時の混雑を除けば、味、量、バランス共に問題はなかった。

過去最多の参加国数の為か、随所にイタリアサイドの対応の拙さが見られ、オーストラリアなどはADカードの発行に9時間も待機させられたりしていた。

4日のテクニカルミーティングでは、各国から対応の拙さへの不満が噴出。FISUからも通訳と補助員の対応で注意されたり、折角の盛り上がりに、水をさされた印象は拭えない大会であった。

2008 世界学生選手権を終えて

女子ヘッドコーチ　黄　慶泳

2008 年世界学生選手権を大きな問題もなく無事に終えた事にほっとしています、また多方面にわたりご協力頂きました関係者の皆様にはお礼を申し上げます。選手選考の過程で何人かの辞退選手が発生し最初に構想したメンバーで出場することは出来ませんでしたが、選手選考にご協力して下さった各チームの関係者の皆様には特に感謝申し上げます。

終わってみれば 11 位と不甲斐無い結果でしたが、選手達は最善の努力をしていましたし、最後まで諦めないで戦ってくれた事については拍手を送りたいです。

2008 イタリア世界学生選手権の準備段階では、2 月 25 日－ 28 日まで（NTC）選手選考兼強化練習、6 月 24 日－ 26 日まで（NTC）強化練習、6 月 27 日－ 7 月 3 日（ポーランド合宿）を経て本大会に臨みました。6 月 24 日－ 26 日までは戦術練習をし、ポーランド合宿の中で実戦感覚と戦術の確認をしながらチーム作りをする予定でいました。

しかし、私が急遽韓国に帰らなくてはならない事がありまして、ポーランド合宿に参加出来ず大会直前にイタリアで合流するという思わぬ問題が起きました。ポーランド合宿の時に練習試合の中で選手達と呼吸の合わせと戦術の確認をしたかったのですが、それが出来ていない状況で大会に挑まなければならなかったため正直不安はありました。

予選突破の為にはベラルーシとブラジルに勝って、最終戦のハンガリー戦では 1 位通過か 2 位通過かを判断するという構想でいました。

しかし、構想とは違ってベラルーシとブラジル戦で引き分け、そしてハンガリー戦に破れてしまい、予選 3 位で決勝トーナメント進出が出来なくなる結果となりました。





2 回の引き分けた試合は勝ちゲームを引き分けたもので、急な体力低下からの後半の崩れはとても悔しい試合でした。

そしてハンガリー戦でも後半中盤に 4 点差まで追い上げてから、自分達の連続シュートミスとラインクロス等で相手にリズムを渡してしまい、またも悔しい思いをしましたが、日本チームの弱点がそのまま出た試合でもありました。

結果として下位リーグに回ったけれども、チーム内には最後まで最善の努力をして何かを得て持ち帰ろうとの意地が見られ、最後まで諦めない戦いが出来たと思っています。

不完全燃焼で大会を終えて悔いも残っていますが、途中でチームにご迷惑を掛けた事について申し訳ないと思っていますし、責任を強く感じています。しかし、その中でも八尾コーチと斉藤コーチが色々な部分でチームをまとめてくれたお陰でそれなりの戦いが出来たと思っていますし、大変感謝しています。そして最後まで諦めないで戦ってくれた選手達にも拍手を送ります。特に今大会では日本と体力・体格的な面と戦術的な面が似ているトルコが優勝するのを観ていて、日本もスピード・スタミナ・テクニックがあれば戦えるという自信と希望を感じました。

今回の大会を通して若い選手達は沢山のことを観て感じて勉強になったと考えています。色々な課題を理解、分析して一回限りの課題で終わらせないで常日頃から意識しながらトレーニングしなければならないし、世界で戦える選手を育てる為に努力したいと思っています。その努力がいつかは大きな結果に繋がって行くと確信しています。

最後になりますが、この大会の準備段階から終わるまでに色々とご尽力頂きました関係者の皆様には改めて御礼を申し上げます。ありがとうございました。

参加選手のコメント

男　子

世界学生選手権大会に出場して

大崎電気　岩永　生

今回世界学生選手権大会に日本代表として出場して、色々なことを学ぶことができましたが、その中でも１点の重み、１点の大切さが身にしみた大会になりました。

目標だったメダル獲得には予選リーグ突破が絶対条件でしたが、その予選リーグでセルビアに同点、グルジアに１点差負けとどちらかの試合であと１点取っていれば予選リーグを突破できていて、同点だったセルビアが優勝したロシアに１点差負けだったのを考えると十分にメダルを狙える可能性があっただけに予選リーグでのあと１点がとても悔やまれます。しかしその１点を取れなかったのが日本の弱さであり、国際大会の経験不足だったと思います。

次の世界学生選手権大会には今回学生から選ばれた棚原、東長濱、石川、生川、甲斐、谷村などの黄金世代と呼ばれているメンバーが上の立場となって日本代表の中心メンバーになってくると思うので、今回の大会での１点の重み、１点の大切さを知った経験を活かして日本初となるメダルを獲ってほしいと思います。

世界学生選手権大会の反省・課題

日本体育大学　石川　出

今大会の反省として、１点差のゲームをものにできなかったのが一番の反省だと思います。同点になる場面でのシュートミスがその原因だと思います。決めるべき場面でのシュートを外し、大事な試合を落としてしまいました。シュートミスは、選手一人一人が所属チームでの練習から意識してなくしていかないと改善しないと思います。

もう一つの課題として、フィジカル不足があげられると思います。日本のフィジカルは、今大会の出場チームのなかでかなり低い方だったと思います。いまだヨーロッパのチームやメダルを獲得できるチームとの差は大きく、これも選手一人一人が所属チームで取り組んで改善していかないとと思います。

今大会を通じて思ったことは、日本は速攻・クイックスタートを“武器”にした方がいいということです。自分は日体大で速攻・クイックスタートを多用しているから感じたのですが、やはり速攻・クイックスタートでの得点はチームにいい流れをつくるし、相手は体力を消耗し動きが鈍くなってくるので、速攻・クイックスタートを恐れずに積極的に仕掛けた方がいいと思います。

女　子

世界学生選手権大会に出場して

ソニーセミコンダクタ九州　樋口真央

今回、この大会に出場し、大変貴重な経験をさせていただきました。

初戦のベラルーシ戦、第２戦のブラジル戦、なぜ引き分けに持ち込まれたのか？

それを考えると今でも悔しくてなりません。身体能力・体格といったものはどうしようもない部分はありますが、日本のハンドボールは全く劣っていなかったと思います。

１つ１つのプレーにフォーカスを当てると、日本のハンドボールのほうが断然きめ細やかで、頭脳プレーだと言えると思います。しかし、海外の、大雑把でありながらも形にとらわれず貪欲にゴールに向かってくるプレーを守りきれなかったのもまた事実で、その差が結果となって表れてしまいました。日本のスピード・戦術は世界に通用すると確信したものの、それを60分間維持し、また、相手が日本の攻撃や変則的なディフェンスに慣れてきたときにもう一変化、二変化できる体力・知力・精神力が必要だと感じました。

そういった面からすると、今大会の優勝国トルコは実に充実したチームだったと思います。体格は私たちとほとんど変わりませんが、自分達が何をすべきで、どうしたら勝てるのかを把握し、何より闘争心をむき出しにしながら戦っていました。日本の越えなくてはいけない壁を、トルコの戦いを見てハッキリと感じました。

悔しい結果に終わってしまいましたが、本当に短期間で、どのように戦うか、私たちに全身全霊をかけて指導し、チームを作ってくださった黄ヘッドコーチ・八尾コーチ・齊藤コーチ、私たちが全力で戦えるようバックアップしてくださった高野内トレーナーに本当に感謝しています。また、私たち選手がこの大会に出場するにあたり、身辺の環境を整えてくださった関係者の方々、各々の所属チームの方々、協力・応援・支援をしてくださった皆様に大変感謝しています。ありがとうございました。

世界学生選手権大会を終えて

東海大学　山下裕美子

私は、今回世界学生に参加させていただいたことで、たくさんのことを学びました。

世界のレベルは、私が想像していたよりもはるかに高く、特に身体的な能力の差を感じました。その中で、世界の相手におとることのない、スピードと機動力を活かし、日本のチームが同じ方向性を持って戦えたと感じています。大会中、

試合をしていく中で、思うように勝ちきれない試合が多く、1点の重みを痛感させられ、そして「勝つ」ことの喜びも感じました。また､実業団や大学生など様々な環境から集まり、一つのチームとして一緒に生活し戦っていく上で、私自身多くのことを勉強させられました。技術的な部分はもちろん、モチベーションの高さや行動の一つ一つに学ぶことがありました。私の中で、この期間は学生リーグでは感じることの出来ないかけがえのないものを学び得ることが出来ました。事前合宿も含めて、約1ヶ月という短い期間でしたが、とても勉強になり、未熟な私を成長させていただいたと思います。この期間に感じたことの全てを、これからのハンドボール生活に活かしていきたいと思います。

最後に、大会に携わり支えていただいた方々、スタッフのみなさん本当にありがとうございました。

選手団名簿

役職	氏名	所属
団長	福地　賢介	日本ハンドボール協会

役職	氏名	所属
ヘッドコーチ	佐藤壮一郎	日本ハンドボール協会
コーチ	中山　剛	日本ハンドボール協会
コーチ	Roland Nemes	日本ハンドボール協会
ドクター	沖本　信和	沖本クリニック
トレーナー	永井　正之	ながい接骨院

役職	氏名	所属
ヘッドコーチ	黄　慶泳	日本ハンドボール協会
コーチ	八尾　泰寛	日本ハンドボール協会
コーチ	斎藤　慎太郎	日本ハンドボール協会
トレーナー	高野内　俊也	日本予防医学協会

男子		氏名	所属	最終出身校
1	GK	東　直明	大同特殊鋼	日本体育大学
2	GK	東　佑三	大崎電気	大阪体育大学
3	GK	甲斐　昭人	日本体育大学	小林工業高校
4	CP	岩永　生	大崎電気	筑波大学
5	CP	海道　衛秀	トヨタ紡織九州	筑波大学
6	CP	今井　昭仁	湧永製薬	福岡大学
7	CP	新　建二	湧永製薬	大阪体育大学
8	CP	岸川　英誉	大同特殊鋼	早稲田大学
9	CP	高智　海吏	トヨタ車体	大阪体育大学
10	CP	千々波　英明	大同特殊鋼	日本体育大学
11	CP	銘苅　淳	トヨタ車体	筑波大学
12	CP	谷村　遼太	大阪体育大学	高松高校
13	CP	石川　出	日本体育大学	興南高校
14	CP	棚原　良	日本体育大学	興南高校
15	CP	生川　岳人	日本体育大学	北陸高校
16	CP	東長濱　秀希	日本体育大学	興南高校

女子		氏名	所属	最終出身校
1	GK	下地　ゆいの	北國銀行	筑波大学
2	CP	坂部　智子	香川銀行	武庫川女子大学
3	CP	国保　美保子	東京女子体育大学	文大杉並高校
4	CP	山下　裕美子	東海大学	桜花学園高校
5	CP	植垣　暁恵	広島メイプルレッズ	大阪教育大学
6	CP	谷口　英子	三重バイオレットアイリス	東京女子体育大学
7	CP	大城　夕貴	大阪教育大学	浦添高校
8	CP	稲葉　由衣	東京女子体育大学	熊本国府高校
9	CP	市村　早紀	オムロン	武庫川女子大学
10	CP	藤井　紫緒	オムロン	東京女子体育大学
11	CP	前田　奈美	武庫川女子大学	玉野光南高校
12	GK	毛利　久美	三重バイオレットアイリス	福岡教育大学
13	CP	樋口　真央	ソニーセミコンダクタ九州	筑波大学
14	CP	早川　志歩	東京女子体育大学	聖和学園高校
16	GK	南　裕子	ソニーセミコンダクタ九州	武庫川女子大学



戦　評

[男子]

■予選リーグ

▼7月6日（JESOLO）

日　本　36（15－18・21－14）32　アゼルバイジャン

緒戦と言う事で堅さが窺われ、本来の動きが見られなかったが、10分過ぎに相手の警告・退場を機に加点し一時は9対5としたが、中盤以降も堅さが取れず、GK東（直明）の堅守もあって、前半は何とか15対18で折り返す。後半に入り、相手が単調なシュートを放ってくるが、GK東（佑三）の好捕があり、徐々に堅さが取れ、後半15分、岩永・石川の速攻から追いつき、本来の動きが出てきて、コンスタントに加点、逆転勝利を飾った。

※得点：岩永＝12点、石川＝7点、高智＝6点、海道＝4点、その他

▼7月7日（JESOLO）

日　本　28（13－15・15－13）28　セルビア

対戦前情報では、セルビアはヨーロッパジュニア選手権で活躍したメンバー主体の良いチームとの事であり、確かに、ボール繋ぎに精度の高さが見られ、緻密なプレーを仕掛けて来たが、日本も6－0DFで打たせて速攻に繋げる作戦で対抗。ゆっくり攻めるセルビアにペースを握られ、マイペースに持ち込めなかったが、10分過ぎに相手の退場から高智・石川などのカットインも決まり11対8とリードした。しかし20分過ぎからパスの精度が落ちミスが続き、逆転され13対15と逆に2点のアヘッドとなった。

後半も立ち直りが見られず、20分には5点差とされたが、相手エースの3回目の退場から流れが変わり、海道・新・岩永と連続得点で追い上げ、29分、27対27の同点に持ち込んだ。しかし、此処で岸川が反則、残り1分の退場がレッドとなり7m、それを決められ万事休すと思われたが、生川の頭脳的なリスタートから岩永、海道とパスが渡り、中央をすり抜けた海道がタイムアップ寸前の得点で辛くも引き分けた。

※得点：岩永＝9点、海道＝5点、岸川・新＝3点、生川・高智・東長濱＝2点、その他

▼7月8日（JESOLO）

日　本　27（16－14・11－14）28　グルジア

この試合に勝つか引き分けで決勝トーナメント進出という大事な試合であった。立ち上がりからグルジアの動きが悪く、そこを衝いて常に先手をとり優位に進めたが、15分過ぎから徐々にグルジアの動きに早さが見られ、日本のミス連発も手伝い11対11と追いつかれた。その後、加点し前半は16対14で折り返す。しかし後半に入ると、日本のシュートがグルジアのGKにはじき返され、一進一退で推移。25分経過してからの日本のミスが更に目立ち、そこを衝かれて逆転を許し、残り1分、2点のビハインド、海道の身体を張ったプレーで相手GKを退場に追い込んだが、時既に遅く1点差で敗れ順位決定戦行きとなった。後半のノーマークシュートの外しや、ミス多発が悔やまれる一戦であった。

※得点：石川＝7点、岩永＝5点、岸川＝4点、海道・新＝3点、高智＝2点、その他

■9位～16位決定戦

▼7月9日（JESOLO）

日　本　40（19－15・21－10）25　メキシコ

メキシコは、立ち上がりから、めまぐるしくポジションチェンジを行いサイドへと展開し日本のミスをついて来たが、昨日の敗戦の影響か、日本に堅さが見られイージーミスが出て失点を重ねた。しかし、10分過ぎからやっとDFが機能し始めて、速攻への展開が見られ、岩永・岸川等の連続速攻で5連取、10対9にして優位に立ったが、15分過ぎに石川・東長濱・谷村・生川・甲斐など学生中心のメンバーに切り替えた時にミスが連発、食い下がられるが、GK甲斐の好守があって、前半を19対15で折り返す。後半は、日本のスピードある攻撃が出て10分過ぎには勝負の帰趨がついた。その後はスピードの衰えたメキシコに気を緩めず勝利した。

※得点：岸川＝8点、岩永・東長濱＝6点、千々波＝5点、新・谷村・石川＝3点、その他

▼7月10日（JESOLO）

日　本　30（16－16・14－13）29　キプロス

予選リーグで強豪ハンガリーを破っているキプロスは、体格的に日本と互角で、OFも早い攻めと強引な突破力を見せて、谷村のミドルシュートで先行したが、すかさず返され、20分過ぎまで一進一退の展開で推移。その後、一時は、新の連続速攻で3点差としたものの、7m・カットインで返され前半はイーブンで終る。

後半開始早々石川の2連発と千々波・生川の速攻で4点差として優位に立ち、日本ペースで10分が経過。しかし、20分過ぎから日本のDFの動きが鈍化、そこをキプロスにつかれ猛攻にあう。2点差で残り1分。タイムアウトで時間を使ったプレーの再確認で何とか凌ぎ、残り10秒で1点差とされたが、何とか逃げ切った。

※得点：新＝5点、高智・千々波＝4点、岩永・岸川・谷村・東長濱＝3点、その他

▼7月11日（JESOLO）

日　本　32（16－9・13－20）35　ハンガリー
（0－3・3－3）

直前合宿をハンガリーで、このチームと合同練習しており、決勝戦での対戦を誓っての参加であったが、ハンガリーは緒戦でキプロスに敗れ、日本同様に順位戦に回っており、9位決定戦での対戦となった。

合宿時に3度対戦し3連敗しており、何とか雪辱をと、立ち上がりから学生主体の編成セットが頑張り、谷村、東長濱、銘苅が3連取、その後もコンスタントに加点、15分過ぎか

ら実業団中心のセットに替わり、海道・新等の速攻から加点、前半を16対9とリード。

後半に入るとハンガリーが立て直し、日本が単調なシュートで外している間に3連続、5連続と失点を許し、10分過ぎには追いつかれた。その後は常にハンガリーに先手を許し、1点リードされ敗色濃い残り15秒、石川のシュートで同点、延長戦に持ち込んだが、体格を活かしてなだれ込むプレーにDFが対応できず3連取され延長戦後半へ。海道・岩永で迫り7人攻撃を仕掛けたりしたが、岸川のサイドシュートでタイムアップ。

※得点：岩永＝9点、岸川・東長濱＝4点、海道＝3点、その他

[女子]

■予選リーグ

▼7月6日（ODERZE）

日　本　28（17－11・11－17）28　ベラルーシ

緒戦で硬さが心配されたが、サイドまでを有効に使ったOFで坂部のサイドからのシュートで先制。ベラルーシも大型ポストを有効に使ったOFで対抗、15分過ぎまで一進一退で推移。GK下地の好守を背景に徐々にペースを掴み藤井のミドル、大城のカットイン、国保のポストなどで多彩に攻め連続加点し、前半の17対11で折り返した。しかし、後半に入るとベラルーシは徹底的にポストに球を集めて日本DFを崩しにかかり、国保、谷口が連続退場を誘われたりしたが、何とか前半の貯金をキープ。20分経過した時点で国保の3回目の退場からDFの乱れが出て、そこをベラルーシに衝かれ、ポストやミドルなどで追い上げられて、28分30秒には逆転を許した。終了間際、坂部のサイドシュートで7mを誘い、それを樋口が決めて引き分けに持ち込んだが、惜しい試合であった。

※得点：樋口＝10点、藤井＝9点、坂部・国保＝3点、その他

▼7月7日（ODERZE）

日　本　29（13－14・16－15）29　ブラジル

身体能力の高いブラジルはカットイン・ポスト等の多彩な攻めを持ち、積極的なプレーで着実に加点、一時期9対5とリードされる。その後、日本も国保、坂部、藤井のシュートで対抗するが、立ち上がりのミス連発が影響し、前半は13対14で終了。

後半に入ると日本は、大城、稲葉のカットインからリズムを掴み、藤井のディスタンスシュートなどで追い上げたが、DFの勝負所で退場が出て、取りつ取られつの展開で推移。15分過ぎ、樋口のサイド、山下の速攻などで連取し2点のリードとなり優位に立つが、ブラジルもウエイトを生かしたカットインやポストプレーで日本DFの退場を誘い加点、1点を争う戦いとなったが、日本に退場が出たときに逆転を許し、苦しい戦いとなった。残り1分、ブラジルに退場が出た時に相手GKのファインセーブで28対29とブラジルリードで終るかと思われた時に、残り5秒、稲葉が中央からカットインを決めて同点に持ち込み終了。

※得点：藤井＝9点、大城＝6点、国保＝4点、樋口＝3点、その他

▼7月8日（ODERZE）

日　本　25（14－20・11－18）38　ハンガリー

前二戦が引き分けで、この試合に勝つか引き分けると決勝トーナメント進出もあった。大型選手を擁し攻守にバランスの取れたハンガリーは、優勝候補に上げられており、それに日本がどのように戦うか注目されたが、日本は5－1DFを仕掛けると共にOFは早いパスワークからの得点機を窺う展開を見せた。GK毛利の積極果敢なキーピングで大城、樋口、藤井の得点を生んだが、ハンガリーの速攻、カットイン、ポストと多彩な攻めに失点を重ね、14対20の6点差で前半を終了。

後半、日本も必死に攻守を展開し15分までは6点差で推移したが、その後は、ハンガリーの多彩な攻撃に得点を許し、藤井、大城、樋口などの得点もあったが、結局25対38で敗退。順位決定予備戦行きとなった。

※得点：藤井＝11点、大城＝5点、樋口＝3点、市村＝2点、その他

▼7月10日（ODERZE）

日　本　32（16－12・16－23）35　リトアニア

リトアニアはハンガリーと同タイプのチームであったが、日本は開始早々市村のカットイン、坂部、藤井の得点で主導権を握り、GK下地の好守をバックに常に先手を取り、その後も大城、坂部、藤井などが着実に加点し優位に進め前半を4点リードで終わる。

後半に入るとリトアニアはクイックスタートを多用し、強引なカットインやポストシュートで追い上げを見せ日本も藤井や坂部のシュートで対抗したが、結局押し切られ32対35で敗れた。

※得点：藤井＝12点、坂部＝10点、市村＝4点、大城＝3点、その他

▼7月11日（ODERZE）

日　本　33（19－14・14－11）25　中　国

未だ勝利のない日本は、立ち上がりから藤井の豪快なミドルによる得点を皮切りに、坂部、市村、大城のコンスタントな得点でペースを掴み、高さの中国にスピードで対抗、守っては6－0DFで中国にプレッシャーをかけ優位に進め前半を19対14で終る。

後半も機動力を生かしたDFシフトの変化（6－0・2－4）と下地の好守から、樋口、早川の速攻を生み、15分過ぎには27対18とリード。中国もサイト・ポストで得点してきたが、山下、稲葉、前田の得点で33対25、今大会の初勝利を飾った。

※得点：藤井＝9点、大城・早川＝5点、市村＝4点、坂部・樋口3点、その他

アジアを勝ち抜け

元女子ナショナルチーム　西みどり



この度は、「世界を奪い返す！」について何か意見をと依頼があり、私のようなものが意見を言うのはおこがましいのではと思いましたが、9年間の代表生活で感じたことを書かせて頂きます。

私は、オリンピック予選を3回経験しました。バルセロナの予選では148日間の長期合宿を通して、普通の合宿では得ることのできない体力、精神力を養いました。そして、中国には勝てるという自信はつきましたが、韓国には力の差がありすぎて勝負になるのかという不安が拭い去れませんでした。結果、中国には勝てたものの韓国には完敗でした。

では、どうしたらアジア予選を勝ち抜けるか、また世界選手権で上位に食い込めるかということを考えてみました。

1.【チームの戦術】広島アジア大会時に韓国スタッフが日本の戦術は10年間変わっていないと話しているのを聞き、大変なショックを受けました。戦術が変わっていないということは、進歩がないと考えられます。その後の代表チームは韓国や欧州からスタッフを招いているので、全く進歩がないことはないと思いますが、勝利に繋がらないということは、何かが欠けているのではないでしょうか。

2.【個人のテクニック】昨今では、欧州チームに参加して腕を磨いている選手も数人います。

そういったことから考えれば、一部の個人のテクニックは世界に通じるものがあります。また、対アジアと対欧州では通じるテクニックも違ってきます。それを念頭に置いての練習が必要です。

3.【体力】韓国のスピード、欧州の高さを考えると日本は相当な体力の向上が必要です。また、思考を継続する力、変な言い方ですが、体力が向上したとしても、何も考えずに試合をしていては勝つことは難しいです。韓国で練習試合をした時、体育館の黒板にランニングスコアが書いてありました。試合が終わってすぐに黒板の前でミーティング。ミスも一目瞭然なので、反省すると共に次の課題も立てやすいと思いました。現在なら試合中にパソコンに数値を入力しておけば、試合後にデータの分析もすぐに出来ます。

4.【メンタル】これもかなり重要です。アジア予選の再試合では、大観衆の中、女子代表は持てる力を十分に発揮できなかったと聞きました。どんな時でも冷静に対応できるよう、普段の練習からメンタルトレーニングが必要です。オリンピックでメダルを獲得している競技又は選手が、どのようなメンタルトレーニングをしているか参考にすると良いと思います。

5.【バックアップ体制】これは各国のデータ収集、日本の代表選手の弱点・課題の作成や、そのことを踏まえた上での、大会までの大目標・中間目標・合宿毎の目標の設定をする専任スタッフを作ることです。テクニックを得る為の体力トレーニングは何をするべきか。常に対戦国のイメージを持ちながらの練習方法や、普段のメンタルトレーニングはどうするべきか。といった明確なトレーニングを提示することで、選手が一つ一つの過程で何をしなければならないかということを正確に頭に入れることができると思います。

以上のことを日本代表だけでなく、若い世代のNTSセンタートレーニングにおいても実行していく必要があると思います。何故なら、彼らが将来代表に選ばれる確率は高く、常に世界を意識することが重要であるということを認識してもらわなければなりません。可能であれば、代表チームとの練習試合、海外遠征、海外留学ができればもっと良いと思います。

また、女性指導者の育成をもっと考えて良いかと思います。これは、私のブログで「世界を奪い返す」について意見を求めたところ、ハンドボール経験者のファンの方から頂いた意見の一つです。女性特有の体調の変化がメンタル面の浮き沈みを左右するので、女性指導者ならそういった悩みも理解しやすいこと。他競技で女性指導者が活躍している競技もあるということ。そして、育成に値する人物の選考案として、1.海外でのプレー経験があり人脈がある。2.選手と一緒に体を動かせ見本を示せる。3.家庭及び周囲の理解、バックアップ路線がすでにある。又は見込みがある。4.勝負に強いこだわりがあり「勝ち」に飢えている。5.メンタル・フィジカル面に見識があり、医師やトレーナーを選手に紹介できる。などが挙げられていました。

もう一つ、経験者ではないハンドボールファンの方からも意見を頂きました。企業のバックアップが得られるなら、海外へより多くの選手を送り出したらどうかという意見でした。次のオリンピック予選まで、長いようで短い期間です。その中で出来ることを考えると、若い選手に経験を積ませることが一番大事ではないかということでした。今回の北京オリンピックに男子バレーボールチームが16年ぶりに出場しました。堺ブレイザーズのゴッツ石島選手は、派遣という形で海外へ行き、モチベーションの高いチームメイトとプレーしたことによって自分自身の考え方が変わったそうです。海外留学、派遣には企業の協力を得るか、スポンサーを獲得するといった資金の確保が必要になります。不況が長引くなか、難しい面もあると思いますが「世界を奪い返す」ためにもハンドボール界が一丸となってロンドンオリンピック出場を目指してもらいたいと思います。

～日本サッカーの父の教え～

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw フリースロー

北京オリンピックをテレビで見ながら再び寂しい思いをしてしまった。一方で、きびしい現実に納得をするしかなかったのも事実である。果たして次回のロンドン大会、日本の悲願は届くのか。期待と不安が交錯しているのもまた真なりだ。

ところで、日本サッカー協会最高顧問、長沼健氏の「お別れ会」に出席のため来日した「日本サッカーの父」と言われるクラマーさんと出会う機会があった。83歳ながら元気はつらつといったところだったが、サッカーに対する情熱、とりわけ日本への熱い思いを口にした。

ドイツ人のクラマーさんは、1960年から東京五輪が行われた64年まで日本代表コーチを務め、68年のメキシコ五輪直前の68年に再来日、長沼監督、岡野俊一郎コーチで戦った代表チームを銅メダルに導いた。

2005年に創設された日本サッカー殿堂入り以来の再会だったが、サッカーに関しての情熱は失せるどころか、ますます高まっているようでもあった。

「父」の言葉からは、日本サッカーのいっそうの発展を願っていることが明らかだし、ある意味では歯がゆさを感じているようでもあった。

「シーズンオフのチームを外国から呼んでも得るものはない。きびしい環境で苦しい戦いをしてこそ強くなる」

「日本に大事なことは、世界においていかれないこと。勝ちたいという強い意思を持ち、チームに身を捧げることが重要だ。私は皆さんがよく使うチームワークという言葉より、コヒージョンという言葉が好きだ。みんなが協力しあうだけではなく、より強く結びつくことがなくては、チームの成功はあり得ない」

コヒージョンは団結とか結束の意味だが、団体競技においては勝利への一つの大きな要素と言われ、最近とくに注目されている言葉だ。

それと同時に強調したのが「規律」。日本人の特性を生かした勝負への執念を見せつける戦いを期待する言葉だったのだろう。

クラマーさんの熱弁は、何もサッカーだけに通じるものではなく、スポーツ全般に言い換えることが出来よう。選手には「死力を尽くせ」とのアドバイスだろうし、スタッフには「世界に遅れないためには、どの時期に多くの国際経験を積ませるか」を問いかけたのではなかろうか。「父の言葉」をじっくり噛み締めたい。

第28回全国クラブハンドボール選手権大会・西地区大会

大会を振り返って

佐賀県ハンドボール協会事務局長　清原 宏一



7月19日～21日、梅雨も明けて日に日に夏の暑さが厳しくなっていく佐賀県佐賀市において、第28回全国クラブハンドボール選手権大会西地区大会が開催されました。前年同様、各ブロック（東海・近畿・中国・四国・九州・開催地）代表の、男子12チーム、女子8チームの計20チームが参加しました。

佐賀県では、昨年、全国高等学校総合体育大会「2007青春・佐賀総体」が開催され、ハンドボール競技も大盛況の内に、無事成功裏に終えることができました。また、「中東の笛」による北京五輪予選の再試合や実業団チームである「トヨタ紡織九州レッドトルネード」の活躍もあり、県内でもハンドボールに対する競技熱がますます高まってきている中での今大会の開催となりました。

7月19日に審判会議・代表者会議および開会式が行われました。試合進行の遅れが懸念されたことから、参加チームの了承もあり、今大会は「タイムアウトなし」というルールで実施することになりました。

7月20日より競技が開始され、男子は3チームずつに別れての予選リーグ、女子はトーナメント戦による準決勝までが行われ、白熱した試合が展開されました。

7月21日は決勝トーナメントのほか、順位決定戦が行われました。開催地枠で出場した男子の白石クラブと女子の神埼クラブが順位決定戦を勝ち上がり、5位に入ることができました。

男子準決勝の北送会（長崎県）対ACウインズ（愛知県）は一進一退の攻防が続き、最後は北送会がACウインズを突き放し、勝利しました。もう一試合の下松クラブ（山口県）対FHC（福岡県）は同点で迎えた残り7秒、下松クラブのGKが弾いたリバウンドボールをFHCの選手が確保し、落ち着いてシュートを決め、劇的な勝利となりました。決勝は九州勢同士の対決で、両チームともスピーディーな試合展開でしたが、FHCが終始リードを保ち、初優勝を飾りました。

女子決勝は、昨年と同じ組み合わせの徳山クラブ（山口県）対大阪教員（大阪府）となりました。両チーム点の取り合いとなり、今大会初の延長戦に突入しました。延長前半も同点でしたが、延長後半に大阪教員が徳山クラブを突き放し、前回大会のリベンジを果たしました。

今大会開催にあたり、ハンドボール競技人口が少ない佐賀県ということに加え、理事長ならびに協会事務局が今年度より変更になったこともあり、運営面では多くの不安を抱えておりましたが、関係各位のご協力により無事大会が終了することができ、心より感謝いたしております。特に、九州ハンドボール協会ならびに九州各県のハンドボール協会には、大会運営、審判の派遣等、ご尽力を頂き、誠に有り難う御座いました。

戦　評

■男子

FHC　26（14-7・12-9）16　北送会



九州代表同士の決勝戦となった。前半、FHCはGKを中心とした堅い守りからの速攻と多彩な攻めにより、終始北送会をリードし、ダブルスコアで前半を折り返した。

北送会は、小柄ながら速いパス回しとポジションチェンジで対抗するが、後半に入っても、なかなかFHCの守りを崩すことができず、点差を詰めることができなかった。

体格・パワーで勝るFHCの快勝であった。

■女子

大阪教員　36（14-15・14-13・2-2・6-2）32　徳山クラブ



前半、前年度優勝の徳山クラブが序盤5点をリードするが、大阪教員が5連続得点で同点に追いつき、波に乗り加点する。徳山も負けじと終盤連続得点し、徳山の1点リードで折り返す。

後半開始直後、大阪は相手の反則を誘い、7mTを決め、同点に追いつくと、カットインやサインプレーが鮮やかに決まり、リードを広げていった。意地を見せる徳山も16分に同点とし、最後まで目が離せない展開となり、そのまま延長戦に突入した。

互角のチーム力であったが、最後まで集中力と体力が切れなかった大阪教員に軍配が上がった。

第28回全国クラブハンドボール選手権大会・東地区大会

大会を振り返って

福島県ハンドボール協会事務局　飯塚 敏章

日　程：平成20年7月25日（金）～27日（日）
場　所：本宮市総合体育館・本宮体育館・本宮高校体育館

奥州街道の宿場町として繁栄してきた福島県本宮市は県のほぼ中央に位置し、東北の玄関口としても注目されています。平成7年の『ふくしま国体』では成年男子・成年女子の会場で盛り上がったのは記憶の新しいところ。その本宮市において第28回全国クラブハンドボール選手権大会東地区大会が開催されました。本宮市での開催も今年で13年連続となり、出場したチーム・選手・関係者の皆さまにとって本宮市が愛着のある土地になりつつあるようです。

さらに、今大会も日本ハンドボール協会公認審判員A級審査会の舞台になったことで一層緊張感のある大会になりました。全国各地から来福されました受験者の皆さま、日本ハンドボール協会審判審査指導委員の皆さま、本当にお疲れさまでした。

さて、各ブロック予選を勝ち抜いた強豪チーム（男子16チーム、女子8チーム）が力と技を競い合い、記憶に残る熱いゲームが展開されました。男子では前年度優勝の蓮田クラブが連覇できるか？　女子では前年度準優勝のSAKURAクラブが昨年の雪辱を晴らせるか？　など見どころ盛りだくさんの大会だったような気がします。大会の結果ですが、男子は法政二OBが初優勝、女子は氷見クラブが4回目の優勝を果たしました。会場には全国トップレベルのプレーを観戦しようと多くのハンドボール愛好者が集い、選手諸君に熱いエールを送ってくれました。協会一同、衷心より御礼申し上げます。終わりに、ハンドボール競技が更なる発展・メジャー化するべく、協会一同これからも精進してまいりたいと思います。

戦　評

■男子

法政二ＯＢ　21（9-4・12-7）11　ＦＳＴ

関東ブロック予選を1位で通過し、1回戦から危なげなく順当に勝ち上がってきた法政二OBと準決勝で前年度優勝の蓮田クラブを1点差で振り切ったFSTが対決。

法政二OBのスローオフでゲームが開始され、法政二OB 9番木村の連続得点を含む3連続得点で法政二OBがスタートダッシュに成功したかに思えたが、FSTも11番伊藤の連続得点を含む3連続得点で3対3の同点とする。緊迫したゲームが続くと思われたが、前半12分過ぎから法政二OBの早いパス回しや速攻が決まりだし、4連続得点などで前半を9対4の法政二OB 5点リードで終了。

後半になり、追いかけるFSTは多彩なセットプレーなどで攻撃するも、決定的なチャンスをものにできず逆に法政二OBに3連続得点を許すなどし、流れは一気に法政二OBへ。

終盤になってもFSTは法政二OBの訓練された0－6ディフェンスを攻めきれず点差は開く一方となり、21対11で法政二OBが勝利した。なお、今回が初優勝だったので、選手・チーム関係者は大喜びであった。



■女子

氷見クラブ　23（9-5・14-5）10　筑波学園クラブ

準決勝では前年度準優勝・SAKURAクラブとの延長戦を制し、勢いづいた筑波学園クラブと、攻撃力・守備力ともに安定している北信越代表・氷見クラブとが対決。両チームとも過去にこの大会で優勝経験のある有力チームなので、どれだけミスを減らすかが勝負の分かれ道であったと思う。

氷見クラブのスローオフで始まった前半、落ち着いたパス回しに綺麗なカットインシュートで相手を翻弄し、氷見クラブが4連続得点をあげる。筑波学園クラブは前半8分に9番中村のシュートが決まり、ようやく初得点をあげたものの、前半15分までに2点しか獲得できず苦しい展開が続く。その後、両チームとも点を取り合い、前半9対5氷見クラブが4点リードで前半折り返し。

後半になっても氷見クラブの猛攻撃が続く。7番大屋、11番竹森（恵）のシュートが面白いように決まりだし、点差が開きはじめ、流れを取り戻したい筑波学園クラブは8分過ぎにタイムアウトを請求。しかし、ゲーム再開後も氷見クラブの攻撃は止まらず、結局23対10の圧勝で氷見クラブが筑波学園クラブを退け、4年ぶり4回目の優勝を果たした。



平成20年3月15日・16日の両日、駒澤大学において、第6回ハンドボールコーチング研究会が開催されました。本研究会は、全国の指導者が自身の経験や・知見を持ち寄り、実際の現場で有用な情報を共有する機会として位置付けられています。
研究会の発表内容については、本誌で連載報告していただく運びとなりました。
今月は市村志朗さん（東京理科大学）の発表内容「ハンドボール選手に適した間欠的運動能力評価法の検討」を報告させていただきます。なお、他の発表については次号以降で報告を連載いたします。

(財)日本ハンドボール協会指導委員会研究部会　舎利弗　学（学校法人福島高等学校）

ハンドボール選手に適した間欠的運動能力評価法の検討

市村志朗（東京理科大学）、森口哲史（鹿児島大学）

キーワード：間欠的運動能力、ハンドボール選手、20m-40m-20m 方向転換走

緒　言

ハンドボール競技では、無酸素的な激しい動きと有酸素的な緩やかな動きが混在している。しがって、ハンドボール選手とって、高い競技レベルでのゲームでは、より高い間欠的運動能力が必要とされる。

一般的に、間欠的運動能力は自転車エルゴメータを用いて評価されている。しかし、普段のトレーニングで自転車運動を行わない選手にとっては、自転車運動にて評価される間欠的運動能力は過小評価される可能性が考えられる。さらに、競技選手にとって、運動能力テストは可能な限り実践に近い状況で評価されることの方が望ましい。

そこで、本研究では、ハンドボール選手に適した間欠的運動能力の評価法を検討するために、自転車エルゴメータを用いて評価される間欠的運動能力指標とハンドボールコート内にて行うことのできる 20m-40m-20m 方向転換走にて評価される間欠的運動能力指標との関連を検討することを目的とした。

方　法

対象者は、日常的に身体トレーニングを行っている健常男性7名（年齢：20 ± 1 歳、身長：180.6 ± 7.6cm、体重：81.4 ± 8.9kg）であった。

間欠的運動能力を評価するために、対象者には自転車エルゴメータおよび 20m-40m-20m 方向転換走を用いた間欠的運動を行わせた。自転車エルゴメータでの間欠的運動は、被検者の体重の 7.5% の負荷で 6 秒間最大努力自転車運動を 20 秒間の休息を挟んで 10 回連続して行うものであった。20m-40m-20m 方向転換走での間欠的運動は、1 分間に 1 回、最大努力にてハンドボールコートセンターライン上からエンドライン方向へ 20m 走行し方向転換、次に他方のエンドライン方向へ 40m 走行し方向転換、そして、センターラインにてゴールするという方向転換走を10回連続して行うというものであった。

これら間欠的運動の際に、自転車エルゴメータ時には各試行の平均パワーを、20m-40m-20m 方向転換走時には走行タイムを記録した。自転車エルゴメータでの間欠的運動では、平均ピークパワーの低下率を、20m-40m-20m 方向転換走では、走行タイムの遅延率を、それぞれの間欠的運動能力指標とした。さらに、各間欠的運動共に、試行開始前と試行 10 回目直後、間欠運動終了 1 分後、3 分後に指尖より血中乳酸値を測定した。

結　果

図 1 には、自転車エルゴメータでの間欠的運動時の平均ピークパワーと 20m-40m-20m 方向転換走での間欠的運動時の走行タイムを示した。試行回数の増加に伴い、平均ピー

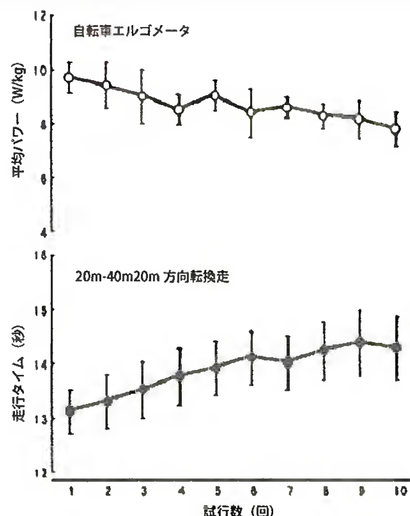


図１　平均パワーと走行タイムの変化

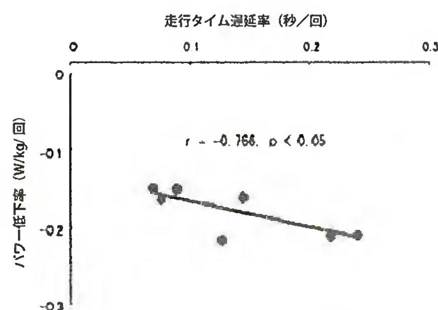


図２　走行タイム遅延率とパワー低下率との関係

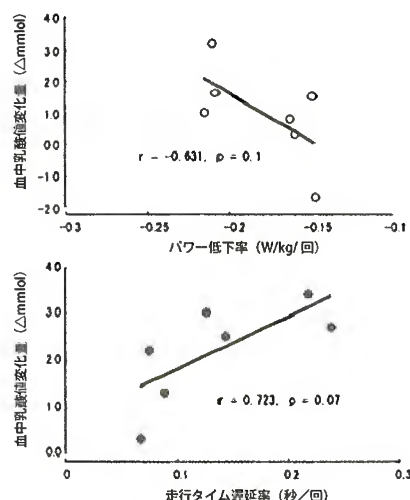


図３　パワー低下率および走行タイム遅延率と血中乳酸値変化量との関係



クパワーは低下し、走行タイムは遅延した。これら 10 試行でのパワー低下率と走行タイム遅延率は、それぞれ、-0.182 ± 0.031W/kg/ 回、0.137 ± 0.068 秒 / 回であった。これらパワー低下率とタイム遅延率の間には、有意な負の相関関係 (r=-0.766, p<0.05) が認められた（図 2）。

間欠的運動直後と運動終了 1 分後の血中乳酸値は、自転車エルゴメータで 13.3 ± 1.3mmol、14.3 ± 1.4 mmol、20m-40m-20m 方向転換走で 16.8 ± 1.6mmol/l、19.0 ± 1.6mmol/l であった。最高血中乳酸値は、自転車エルゴメータ、20m-40m-20m 方向転換走で、それぞれ 14.5 ± 1.1mmol/l、19.1 ± 1.5mmol/l であった。これら血中乳酸値とパワー低下率および走行タイム遅延率との間には有意な関連はみられなかった。一方、間欠的運動直後と運動 1 分後の血中乳酸値の変化量とパワー低下率には負の、走行タイムとの間には正の相関傾向がみられた（図 3）。

まとめ

1 分間に 1 回、最大努力にて 10 回行う間欠的な 20m-40m-20m 方向転換走にて評価した間欠的運動能力指標は、一般的に用いられている自転車エルゴメータでの間欠的運動能力指標と同様に扱うことができる可能性が示唆された。

さらに、間欠的運動能力の優劣は、血中乳酸の消失能力に関連しているかもしれない

協会だより

平成20年度第1回評議員会

日　時：平成20年6月7日（土）
　　　　13:00-16:00
場　所：ナショナルトレーニングセンター
　　　　研修室（3）（4）
評議員現在数　53名
出席者（敬称略、名簿順）
［評議員］
小島収治、齋藤　浩、今野正志、山下勝司、竹内佳明、村木啓作、夏目眞治、名倉昭弘、中村博幸、大原康昇、中井公人、森江和吉、後山富士水、高野　修、増田雅夫、松本育男、長尾輝夫、田中達男、武田末男、田中　守、佐藤喜一、堀之内真澄、原田孝幸、三辻陽夫、川原繁樹、木野　実　以上26名
［委任状提出評議員］
谷藤勝美、菅野　肇、奥山重雄、後藤義信、安田博之、齋藤光男、上久保重次、内記英夫、森川利昭、平塚一彦、寺崎　修、中山圭三、井川邦彦、庄司勝三、久保田龍治、前川和三、藤本　昇、塩崎信治、松原紀機、末次　功、石井通義、大宮　泉、本田娟一、新垣　健、齋藤節郎、河先　修　以上26名
［理　事］
渡邉佳英、市原則之、川上憲太、西窪勝広、兼子　真、角　紘昭、蒲生晴明、江成元伸、伊藤宏幸、大橋則一、田中　茂　以上11名
［監　事］
川上整司、荘林康次、高田日呂美　以上3名
［特任副会長］
山下　泉、竹野奉昭　以上2名
［オブザーバー］
田中秀和　以上1名
欠席者（敬称略、名簿順）
塩川安賢
事務局（家永）
以上、出席評議員26名、委任状提出評議員26名、出席理事11名、出席監事3名、特任副会長2名、オブザーバー1名、事務局1名

＜評議員会成立の確認＞

兼子総務担当より、評議員53名中26名出席、書面委任状26名にて3分2以上の出席があり定足数を満たしており、本評議員会が成立していることが報告された。

議事進行に先立ち渡邉会長より挨拶があった。

5月30日～6月1日の北京オリンピック世界最終予選で3位になり、オリンピック出場はできなかった。テレビを見ていたが、日本は以前よりスピードとパワーがつき、力がアップした。

クロアチア・ロシアは日本以上に力がアップしている。ロンドンを目指すが、世界と戦える地力をつけてほしい。

再選でマスコミを賑わし、注目を集めている。夜中にも関わらず、一般の方々が多くテレビを見られていた。これはチャンスである。評議員の方々にも地元で努力していただき、人気が落ちないように頑張っていただきたい。

山下特任副会長の旭日双光章叙勲の紹介があった。

次に議長の選出が行われ、渡邉佳英会長が議長となることが報告された。

＜議事録署名人の選出＞

議長の渡邉会長より、議事録署名人の指名が行われ、議長渡邉佳英会長、高野　修評議員、三辻陽夫評議員、川上憲太専務理事が指名され、満場一致で承認された。

審議事項

1．平成19年度事業報告書（案）について

川上専務理事より概略が説明された後、各担当常務理事より各事業の要点が説明された。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

2．平成19年度決算書（案）について

渡邉会長より、1月末に行われた北京オリンピックアジア予選再戦における広告協賛料についてIHFとの合意が得られていないため、今回提出の決算書にはIHFに日本協会が提示した金額を記入してあり、最終決算が確定していない旨のお詫びと、確定後に改めて報告、審議頂きたい旨のお願いがなされた。

兼子会計担当常務理事より平成19年度の決算について説明がなされた。

事業活動収入合計568,645,741円、事業活動支出合計568,819,881円、他積立金取り崩し収入、積立金支出があり、その結果次期繰越額99,591,090円となった。

川上監事より6月6日に監事3名の立ち会いで監査を行い、業務及び会計処理など適性であったことが報告された。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

3．平成20年度第一次補正予算（案）について

兼子会計担当常務理事より、平成19年度の決算がひとまず確定したことと一部事業見直しがあったことから、平成20年度第一次補正予算案について説明がなされた。

補正後　事業活動収入合計459,012,000円、事業活動支出合計490,474,960円、積立金取り崩し収入1,5000,000円、積立金支出1,500,000円、予備費支出1,500,000円、当期収支差額マイナス33,962,960円となり、次期繰越収支差額は65,628,130円となることが説明された。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

報告事項

1．公益法人制度改革について

兼子常務理事より説明があった。平成20年12月に新しい公益法人法が施行される。5年以内に一般法人か公益法人かを選択しなければならない。一般法人と公益法人では管轄が違ってくるので、今後慎重に判断していくが、日本ハンドボール協会は公益財団法人となることが相応しいと思われる。渡邊会長より、他団体の出方も見ていく。

2．平成20年度日本協会組織図及び平成20・21年度会議日程について

川上専務理事より報告がされた。今年度は総合企画室の充実を進める。また、総務本部長を昨年後半より兼子常務理事より伊藤常務理事に変更した。

3．平成20年度国際・国内・ブロック大会日程について

江成常務理事より報告がされた。今年度のジャパンオープン男子が昨年の中越沖地震の影響で新潟県から富山県に変更になった。

4．IHF, AHF 等国際問題について

川上専務理事より説明がされた。AHFは罰金を倍の2,000ドル支払えと言ってきている。支払わなければ、今後AHFの大会に出られなくなるとも言っている。IHFには強力なリーダーシップをとってほしいと要望を出している。渡邊会長がIHF／AHFと話し合いをして、今月中の解決を目指す。

5．強化（北京五輪世界最終予選結果、H20強化スタッフ等）について

蒲生常務理事より報告がされた。男子北京オリンピック最終予選の結果と、6月12日に強化部会を開き今後について話し合うことが報告された。日本リーグの男子のスタッフをナショナルスタッフに入れて増強した。

6．普及関係（平成20年度第11回ハンドボール研究集会他）について

角常務理事より報告がされた。第11回ハンドボール研究集会の案内の紹介。第16回全日本マスターズ大会の案内の紹介。

7．平成20年度競技運営通達について

江成常務理事より平成20年度競技運営に関する通達について説明があった。

8．JAPAN CUP 2008 について

西窪常務理事より、JAPAN CUP 2008について説明があった。

9．環境委員会について

兼子常務理事より、環境委員会の設置について説明があった。

田中評議員より、環境委員会に関して、設置に関して大賛成である。ハンドボールとしてできることを考えて、具体例を出してほしい。

10．日本リーグについて

田中常務理事より、日本リーグ組織・日程について説明があった。

11．マーケティング（壮行試合、壮行会他）について

大橋常務理事より報告がされた。日韓定期戦、東京タワー壮行会を行ったこと、アシックス・ＡＮＡ・伊藤超短波各社とのオフィシャルスポンサー及びオフィシャルサプライヤーとして契約の更新。

12．がんばれハンドボール10万人会について

伊藤常務理事より報告がされた。前年より450人増であった。

田中評議員より、壮行会や試合会場で10万人会の募集コーナーを設けてはどうか。継続で何年も会員を続けていると、特典の同じバッチが増える。継続会員には別の特典を考えてみれば。

13．その他

木野評議員より、第6回日本車椅子ハンドボール競技大会の案内があった。

田中評議員より、女性委員会がスタートして、何年もたつが今後の方向性はどうなるのか。

角常務理事から、指導方法のアンケートを実施したが、現状はそれ以上活動はなし、今後活発にしていきますと回答があった。

田中評議員より、ホームページの充実を図ってほしい。現在映像が少ないので、今後映像が見られるように充実させて下さい。

蒲生常務理事から、ナショナルチームの映像は、分析班を通じて、編集してアップしていくと回答があった。

村木評議員より、5月の日韓定期戦を愛知県豊田市で開催した。入場者予想は500-600人と思っていましたが、2,256人もの来場があった。開場前の4時～5時には玄関に300人もの方々が並んでいた。今までとは違った顔ぶれで、一般の方が多くなっている。このブームをどのようにキープしていくのか、今までと違った方法を使うことが重要である。

市原副会長より、新しい事業を行うことによって、新しい課題が生まれるが、必ず人材が育つ。

今後もっともっと各地で、事業・大会を持ってもらいたい。

川上専務理事より、来年・再来年と4～5月にイベントを考えて、チーム力のアップはもとより、人材を育てる。

高田監事より、東京タワーの壮行会に出席したが、1,000人もの人が集まった。新しい発想は素晴らしい。今までの発想では考えられない。テレビ局8局も来ていた。改めて、マスコミへの働きかけが重要だと思った。

荘林監事より、先の予選の結果を結果だけに終わらさないで、悔しさを持って次回につなげてほしい。残念と悔しさは違う。強くすることが急務である。皆様のご協力よろしくお願いします。

市原副会長より、以上で平成20年度第1回評議員会が終了した旨が告げられた。皆様のご協力でスムーズに進行しました。この1年各委員会を活発に活動してほしい、その活動を支えるのは、地域の皆様です。「チームハンドボール」でご協力よろしくお願い申し上げます。

スコアールーム ①

第28回全国クラブハンドボール選手権大会西地区大会

開催期日：2008年7月20日(日)～21日(月)
会　　場：佐賀市・佐賀県総合体育館

【男　子】

■予選リーグ

▼Aブロック

スワロークラブ	27（13－7、14－14）21	総社クラブ
北送会	25（14－9、11－11）20	スワロークラブ
北送会	28（16－11、12－11）22	総社クラブ

▼Bブロック

ACウインズ	18（10－5、8－9）14	中央クラブ
白石クラブ	18（9－8、9－9）17	中央クラブ
ACウインズ	25（12－8、13－4）12	白石クラブ

▼Cブロック

下松クラブ	30（18－9、12－9）18	MHC
MHC	20（11－9、9－5）14	京すしクラブ
下松クラブ	30（15－6、15－10）16	京すしクラブ

▼Dブロック

FHC	18（8－7、10－10）17	KHC
FHC	26（14－11、12－7）18	今治ハンドボールクラブ
KHC	22（13－7、9－14）21	今治ハンドボールクラブ

■決勝トーナメント

▼9位－11位決定戦（※勝者が9位、敗者が11位）

総社クラブ	20（11－7、9－12）19	中央クラブ
今治ハンドボールクラブ	29（12－10、17－11）21	京すしクラブ

▼5位－7位決定戦（※勝者が5位、敗者が7位）

白石クラブ	18（7－7、11－9）16	スワロークラブ
MHC	21（11－10、10－9）19	KHC

▼1－4位決定戦

北送会	21（10－10、11－8）18	ACウインズ
FHC	19（10－9、9－9）18	下松クラブ

▼3位決定戦

ACウインズ	25（12－6、13－7）13	下松クラブ

▼決　勝

FHC	26（14－7、12－9）16	北送会

【女　子】

▼1回戦

徳山クラブ	26（14－7、12－7）14	宮崎クラブ
風見鶏クラブ	20（8－6、12－7）13	神埼クラブ
熊本クラブ	23（12－6、11－8）14	MHC
大阪教員	28（13－5、15－4）9	徳島クラブ

▼7位－8位決定戦

宮崎クラブ	24（11－10、13－8）18	MHC

▼5位－6位決定戦 1回戦

神埼クラブ	24（11－7、13－11）18	宮崎クラブ
徳島クラブ	16（8－6、8－4）10	MHC

▼5位－6位決定戦

神埼クラブ	20（12－6、8－5）11	徳島クラブ

▼準決勝

徳山クラブ	20（7－9、13－6）15	風見鶏クラブ
大阪教員	19（10－6、9－8）14	熊本クラブ

▼3位決定戦

熊本クラブ	26（13－13、13－8）21	風見鶏クラブ

▼決　勝

大阪教員	36（14－15、14－13）32 （2－2　延長　6－2）	徳山クラブ

スコアールーム ②

第28回全国クラブハンドボール選手権大会東地区大会

開催期日：2008年7月25日(金)～27日(日)
会　　場：福島県・本宮市総合体育館

■会長杯トーナメント

【男　子】

▼1回戦

法政二OB	39（21－12、18－15）27	十和田クラブ
h・c・million	38（24－11、14－4）15	小金クラブ
青商クラブ	35（17－10、18－11）21	湯沢クラブ
上井草クラブ	35（18－5、17－5）10	金津クラブ
湖陵クラブ	33（20－10、13－16）26	福島SGクラブ
蓮田クラブ	27（12－9、15－10）19	古工クラブ
東陽	25（12－5、13－12）17	小松オールウェイズ
FST	31（17－8、14－9）17	不来方クラブ

▼2回戦

法政二OB	29（11－11、18－9）20	h・c・million
上井草クラブ	29（13－10、16－11）21	青商クラブ
蓮田クラブ	23（8－7、10－11、5－3）21	湖陵クラブ
FST	31（15－11、16－10）21	東陽

▼準決勝

法政二OB	24（10－7、14－9）16	上井草クラブ
FST	20（13－7、7－12）19	蓮田クラブ

▼決　勝

法政二OB	21（9－4、12－7）11	FST

【女　子】

▼1回戦

筑波学園クラブ	38（14－7、24－11）18	萩江クラブ
SAKURAクラブ	25（11－5、14－6）11	北海道SEVEN
氷見クラブ	18（9－9、9－6）15	古川ハンドボールクラブ
オレンジクラブ	20（9－10、11－3）13	福島クラブ

▼準決勝

筑波学園クラブ	19（7－9、8－6）18 （2－2　延長　2－1）	SAKURAクラブ
氷見クラブ	18（7－4、11－7）11	オレンジクラブ

▼決　勝

氷見クラブ	23（9－5、14－5）10	筑波学園クラブ

■市長杯トーナメント

【男　子】

▼1回戦

十和田クラブ	31（15－7、16－14）21	湯沢クラブ
小金クラブ	23（14－5、9－12）17	金津クラブ
福島SGクラブ	37（19－13、18－17）30	古工クラブ
小松オールウェイズ	25（13－6、12－8）14	不来方クラブ

▼準決勝

十和田クラブ	25（12－5、13－10）15	小金クラブ
福島SGクラブ	23（9－9、14－9）18	小松オールウェイズ

▼決　勝

福島SGクラブ	36（17－11、19－12）23	十和田クラブ

【女　子】

▼1回戦

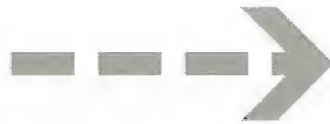
萩江クラブ	30（12－10、18－6）16	北海道SEVEN
福島クラブ	23（14－10、9－6）16	古川ハンドボールクラブ

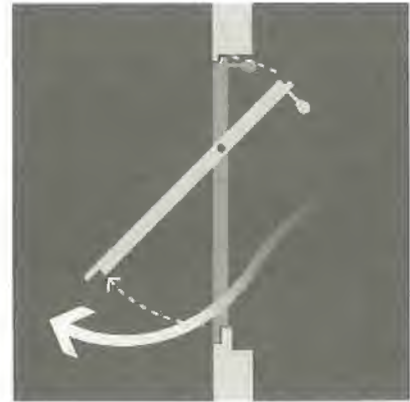
▼決　勝

福島クラブ	22（9－6、6－9）18 （4－1　延長　3－2）	萩江クラブ

呼吸する建築







Swindow ● スウィンドウ
わずかな風圧も捉えて自然に開閉し、室内外の温度差で効率の良い換気が行えるバランス式逆流防止窓。



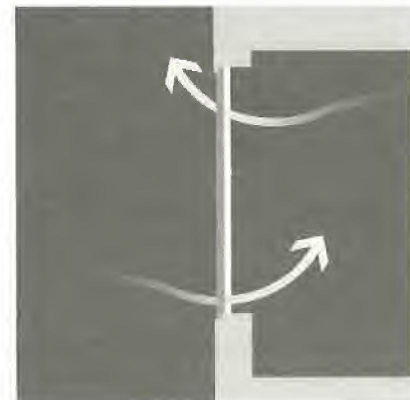




Wincon ● ウィンコン
内蔵の調節弁により、風の強弱に影響を受けにくく、定風量で換気が行えるヨコ型定風量換気スリット。







Cavcon ● キャブコン
内蔵の調節弁により、強風時でも一定の風量で換気ができ、無風時でも内外の温度差による重力換気が行えるタテ型定風量換気スリット。

NAV WINDOW 21

「呼吸する建築」。それは人が呼吸をするように
建築が自然に空気を取り入れ、建物内部の空気を新鮮に保ち
不要なものを排出するシステムを持つことです。
自然換気システム＝NAV WINDOW 21は
これまでの建築の機械空調と共存し
建物を取り囲む風を読み、建物内に風の道を作りそれを状況の変化に
あわせて制御する画期的な換気システムです。

三協立山アルミ株式会社
東京本社／〒164-8503 東京都中野区中央1-38-1
住友中野坂上ビル20F〈環境商品部〉 TEL (03) 5348-0367
インターネットホームページ http://buildingsash.net/

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」7月入会・継続会員

【岩　手】上川　正二　【宮　城】千田　文彦、加藤　宏之　【茨　城】菊田　政行　【埼　玉】中野　慶子、寺尾　嗣子　【千　葉】源五郎丸　宏、清水　義憲　【東京】河内　鋭雄、安藤　純光、鈴木　明美、木津喜　弘倫
【山　梨】齋藤　實　【愛　知】安藤　孝、金川　康夫、山田　壮八、岩井　良太、城山　秀美、山田　美佐子
【岐　阜】森川　俊章　【大　阪】戸谷　克蔵、里村　静俊、伊藤　慎吾、安田　喜美子、西　美代子
【奈　良】奥山　美樹　【和歌山】大橋　吉次、宮本　輝　【広　島】高橋　裕子、鳴谷　なつみ
【福　岡】柏木　晃　【長　崎】石井　通義　【鹿児島】井料　たか子

【9月の行事予定】

【会　議】
9月13日(土)
常務理事会（東京）

【大　会】
9月6日(土)～（全国各地）
第33回日本リーグ

日本ハンドボール協会発行のDVD・冊子のご紹介

◆DVD
「ハンドボール体力トレーニングDVD～体幹・股関節の強化」
NTSブロックトレーニングでの体力測定（新たな基準作成）と体力づくり専門家による指導
【販売価格】2,100円（税込）

◆冊　子
日本ハンドボール協会公認J級指導員必携書
「ジュニアのためのガイドブック2　エンジョイハンドボール」
【販売価格】1,050円（税込）

【申し込み・問い合わせ先】
日本ハンドボール協会事務局
〒150-8050
東京都渋谷区神南1-1-1　岸記念体育会館内
TEL：03-3481-2361
FAX：03-3481-2367

HANDBALL CONTENTS Sep.

（登録チームの購読料は登録料に含む）

asics

sound mind, sound body

JAPAN、名品の系譜。

機能だけではない、風格のようなものがなければならぬ。
先端のテクノロジーでさらにパワーアップした機能を備えて
新しくなったスカイハンドJAPANシリーズ。
グリップ力に優れた国産ラバー採用のJAPANラバーソールと、
しなやかで通気性のあるエクセーヌを使ったカラーアッパーに
ソール前足部のベンチレーションホール等々。
インドアを制するミドルカットとローカットが揃った。

足入れ感を高めてクラシカルな名品復刻モデル。

スカイハンド® JAPAN-MT

THH514 ¥16,800(本体¥16,000)

- カラー：5093 ネイビーブルー×シルバー
- サイズ：23.0〜29.0cm



名品スカイハンドSPのフォルムを受け継いだローカットモデル。

スカイハンド® JAPAN-S

THH515 ¥15,750(本体¥15,000)

- カラー：2300 レッド×パールホワイト
  5093 ネイビーブルー×シルバー
- サイズ：23.0〜29.0cm



JOC オフィシャルパートナー

株式会社アシックス

表示価格は消費税込みのメーカー希望小売価格です。( )内は消費税抜きの本体価格です。http://www.asics.co.jp 商品についてのお問い合わせは「アシックスお客様相談室」までどうぞ。03-3624-1814、06-6385-1155

(財)日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』 第四九三号

昭和四十年六月七日 三種郵便物認可

平成二十年八月二十六日印刷 平成二十年九月一日発行

東京都渋谷区神南一−一−一 電話 代表 〇三−三四八一−二三六一 〇〇一二〇−七−一〇二九三

編集兼発行人 川上憲太

定価 年間三三〇〇円